

北海道初！苫小牧港を「釣り文化振興モデル港」に指定 ～「釣り文化振興モデル港」指定証交付式の開催～

令和2年8月3日、苫小牧港が北海道で初めて「釣り文化振興モデル港」に指定され、10月6日に苫小牧市役所において、指定証交付式が開催されました。交付式では、高田昌行国土交通省港湾局長の代理として、魚住聡国土交通省北海道開発局港湾空港部長から岩倉博文苫小牧市長へ指定証が交付されました。指定証を受け取られた岩倉市長からは、「釣り人のマナー向上、立ち入り禁止箇所への侵入等のトラブル減少、釣り客増加に伴う地域の活性化に期待している。また来年度の本格開放に向けて、安全対策に万全を期し、期待に応えるように進めたい。」とコメントがありました。

苫小牧港では、令和3年度に東港区の内防波堤の先端から約500mの本格開放を目指しています。9月27日に行われた試験開放では、低気圧通過後ではありましたが、サバやサヨリなど12種、約200匹の釣果もありました。

今後、苫小牧港海釣り施設協議会（事務局：苫小牧港管理組合と公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部）を中心に、安全対策及び管理体制などの検討を進めて行く予定です。

本格開放後は、新たな市民の憩いの場となることが期待されます。



指定証交付式の様子

（右から北野 公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部長、岩倉 苫小牧市長、魚住 北海道開発局港湾空港部長、佐々木 苫小牧港管理組合専任副管理者）



▼北海道開発局HP<釣り文化振興モデル港>

(https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kk/kou_kei/splaat000001y72m.html)

(港湾空港部
港湾計画課)

令和2年秋の褒章について

令和2年秋の褒章受章者が10月23日の閣議で決定され、11月3日付けで発令されました。そのうち、北海道開発局港湾空港部からの推薦で、「JF 広尾漁業共同組合女性部連絡協議会」が緑綬褒章を受章され、11月25日に褒状の伝達を行いました。

例年は、本省での伝達式、皇居において拝謁が行われますが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点でいずれも中止とされたことから、広尾漁業協同組合（広尾町）での伝達となりました。

釧路港湾事務所の田川所長から褒状の伝達を受けた連絡協議会会長の城山さんは、長きにわたり十勝港漁港区において清掃奉仕活動を実施し、地域の環境美化保全や利用者の環境保全意識の向上に貢献した功績を踏まえ、「これまでの先輩方達の長きにわたる活動実績があってこそ、今回の受章になりました。」と改めて受章の喜びを語っていました。



田川釧路港湾事務所長から褒状の伝達



左から田川所長、城山会長、
中田副会長、保志副会長

(港湾空港部 港湾計画課)

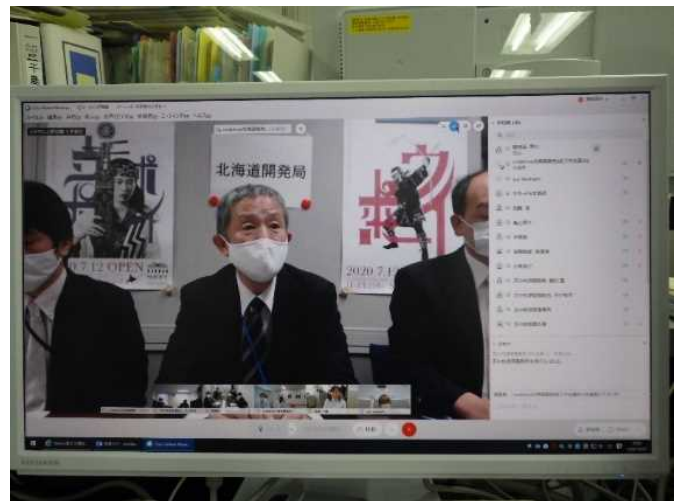
道内初！ 苫小牧港で水際の連携や防災対策を情報共有 ～苫小牧港 水際・防災対策連絡会議を開催～

昨今、高潮・高波災害の激甚・多頻度化やヒアリ等の特定外来生物の侵入、さらには新型コロナウイルス感染症の発生など、港湾機能の継続や市民・港湾利用者の安全・安心の確保に影響を与える様々な事案が発生しています。

このことから北海道開発局港湾空港部及び室蘭開発建設部では、港湾関係者（国、道、市・町、港湾管理者、港湾関係団体等）が日頃から情報を共有し、関係者が一丸となって対応を図ることで水際および防災対策を効果的に実行できることを目的に、苫小牧港で道内初となる、水際・防災対策連絡会議を令和2年10月7日(水)にWEB会議で開催しました。



WEB会議の開催状況



魚住港湾空港部長の挨拶

魚住港湾空港部長からの挨拶の後、①港湾における新たな防災・減災対策について、②感染症の疑いのある外航貨物船の来航時の対応について、③外来生物対策について、④今後のクルーズ船への対応について、国土交通省港湾局及び環境省北海道地方環境事務所より報告がありました。

新型コロナウイルス感染症対策のためWEB会議による開催となりましたが、20を超える多くの港湾関係者の方にご出席いただきました。

北海道開発局では、水際および防災対策にあたっては今後も引き続き、港湾関係者と情報及び連絡体制を共有し、協力しながら対応していきます。

詳細は、下記HPを御覧ください。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/splaat000001yy4k-att/splaat000001za8l.pdf>

(港湾空港部 空港・防災課)

苫小牧港管理組合主催の講習会について

令和2年8月6～7日、苫小牧港管理組合主催による港湾施設維持管理研修会を実施しました。

研修会には北海道大学 横田教授をはじめ、港湾空港技術研究所の山路構造研究領域長、加藤構造研究グループ長、野上主任研究官をお招きし、苫小牧港における施設の腐食状況や苫小牧港独自の維持管理点検要領に基づく点検手法、Googleフォトを活用した写真管理などの取組み事例を紹介し、意見交換をさせていただきました。



ドローンを使った点検実演



ドローンを飛ばしている様子

港湾空港技術研究所からは、近年の維持管理に関する研究成果などの話題提供をいただきました。

内容としましては、山路領域長から『海洋鋼構造物の集中腐食および電気防食に関する最近の知見』と題しまして、腐食メカニズムや他港の防食対策の取組み事例、加藤グループ長からはR2.3月に追加変更された『ガイドラインについての個人的見解』、野上主任研究官からは『ROVを活用した港湾構造物の点検』とし、水中ドローンの現場導入に向けた検討内容と実験から露見した課題について発表いただきました。

いずれの話題も、当港が目指す港湾施設の点検診断における更なる効率化に向けた検討や施設の長寿命化に向けた検討をするにあたり非常に参考となる内容でした。

令和2年度年末年始の輸送等に関する 安全総点検の実施について

国土交通省では、多客繁忙期である年末年始に、公共交通の安全を図るとともに、輸送機関等の安全に対する意識を高めることを目的とする「年末年始の輸送等に関する安全総点検」の取組を実施しております。

関係港湾の港湾管理者の皆さまにおかれましては、管理する施設について、安全対策の実施状況等の自主点検の実施をよろしくお願いいたします。

○期間

令和2年12月10日（木）～令和3年1月10日（日）

○港湾に係る点検事項

- 1 旅客船等ターミナル、港湾施設等の保守点検の実施状況
- 2 港湾におけるテロ防止のための警戒体制の整備状況や乗客等の安心確保のための取組、テロ予告情報を入手した場合やテロ発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況及びテロ発生を想定した訓練の実施状況
- 3 新型インフルエンザ対策及び新型コロナウイルス感染症対策の実施状況
- 4 自然災害、事故等発生時の乗客の安全確保のための通報・連絡・指示体制の整備・構築状況



<参考>国土交通省報道発表（令和2年11月24日）

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo04_hh_000019.html

（港湾空港部 空港・防災課）

港湾管理者による記事投稿を募集します！

今月号では苫小牧港管理組合様から1件の投稿をいただきました。ありがとうございます。

引き続き、港湾管理者による記事投稿を募集しております。各港湾管理者においてPRしたいこと等あれば、気軽に投稿してください。港湾の秩序ある整備と適正な運営について、引き続きよろしくお願いいたします。

港湾管理者専用アドレス

港湾管理者の皆様からの掲載要望やご提案等・その他業務上の疑問等を引き続きお待ちしております。

✉ hkd-ky-kouwan-kougyo@gxb.mlit.go.jp